



施設だより

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602
2月の休館日：2月・9月・16月・23月

2月1日(日) 14:00~
財団設立30周年記念・井伊直弼と開国150年祭記念
「いい歌、いい舞、いい話 彦根今昔物語」
☆彦根の歴史や文化をテーマに物語を構成・演出！
市民文化団体の出演による彦根文化の祭典！
自由 500円 【好評発売中】

2月11日(水祝) 15:00~
エコーメモリアル・チェンバー
オーケストラ演奏会
☆戸澤哲夫さん(コンサートマスター)
自由 大人2,000円 18歳以下1,000円
(当日:各500円増) 【好評発売中】

2月14日(土) 13:45~
財団設立30周年記念・井伊直弼と開国150年祭記念
特別講座
「地方が元気になるには～地域の文化力～」
講師 田原総一郎さん(評論家・ジャーナリスト)
東国原英夫さん(宮崎県知事)
自由 2,000円(当日2,500円)
※前売券が完売の場合、当日券はありません。
※完売の際は、ご了承ください。
【好評発売中】

2月28日(日) 15:00~
及川浩治トリオ“Bee”(びー)コンサート
☆及川浩治さん(ピアノ)、石田泰尚さん(ヴァイオリン)、
石川祐志さん(チェロ)による究極のトリオ
パフォーマンスをご堪能ください！
指定 3,000円 【好評発売中】

3月8日(日) 13:30~
お楽しみコンサート「春」
スプリングコンサート
出演：ひこね第九オーケストラ
☆3月はオーケストラを紹介。本格的な名曲や、
身近なあの曲、指揮者体験コーナーもあり、オーケ
ストラを身近に楽しんでみよう！
【鑑賞無料】

3月13日(金) 18:30~
スカイウォッチャー演奏会
出演：ミルフィーユ・カルテット
☆星空のお話、コンサート、天体観望が一つになっ
た、ロマンティックコンサート
【2月1日(日)発売開始】
自由 ヘア300円、シングル200円

マーク：託児サービスがあります。(要予約)
※公演日の1週間前までにご予約ください。
マーク：公演終了後、彦根駅行き・南彦根駅行きの
臨時バスの便があります。(有料)

チケット・入会のお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター ☎27-5200 (9:00~19:00)

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520
2月の休館日はありません。
※3日(火)~同5日(木)は展示替えの
ため、展示室を一部閉室しています。

開館時間 8:30~17:00 (入館は16:30まで)

直弼発見! 巻の5

2月6日(金)~3月10日(火)

「弥千代の雛と婚礼調度」

直弼の二女・弥千代の雛道具を一堂に公
開。併せて、高松・松平家に嫁いだ弥千代の
婚礼調度も紹介します。



▲弥千代の雛道具

ギャラリートーク

「弥千代の雛と婚礼調度」

2月7日(土) 14:00~15:00

解説：本館学芸員 小井川理

※事前申し込みは不要です。当日、館内講堂
にお集まりください。

観覧料が必要です

直弼のころ

幕末の大老、井伊直弼(1815~1860)は、国
政を担う政治家として
知られる一方、茶の湯や国学、禅、居合などに
ひたむきに取り組む、文化人としての面をあわ
せ持っていました。
このコーナーでは、直弼ゆかりのさまざまな
作品を集め、その人となりを紹介します。

2月4日(水)~3月9日(月)

重要文化財

和歌短冊「春あさみ」

井伊直弼筆

直弼が自らの心境を詠んだ

和歌。

「春まだ浅く、清水が凍てつ
ているように私の考えは未
だ認められない」



市民体育センター ☎23-2293 FAX 23-2294
2月の休館日：3(火)・10(火)・12(木)
・17(火)・24(火)

フェスタ・エアロビクス“スペシャル”

会場 市民体育センター 第1競技場

講師 ラテンエアロビクス スペシャリスト

金子智恵 インストラクター

ピラティス&ヨガ スペシャリスト

小室演子 インストラクター

参加費 1人500円(中学生以上)

【好評発売中】

チケット販売所 市民体育センター

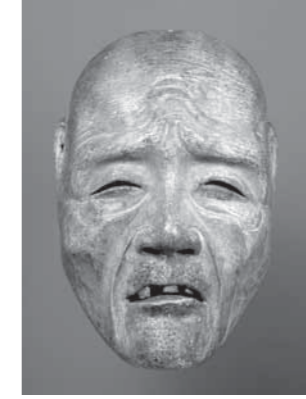
3月

月

日



▲写真2 狂言面・祖父(裏)



▲写真1 狂言面・祖父(表)

夏になると毎年、彦根城博物館能舞
台で、「夕涼み狂言に親しもつ」が開
かれます。能は「ちよつと敷居が高く
て」という人にも、笑いの芸能、狂言
は親しみやすく、好評をいただいで
います。
狂言では、あまり面を使いません
が、猿や狐などの動物の面や、お多
福ひょつこのように顔のつくりを
強調した面があり、独特の魅力を備え
ています。井伊家伝来の面は、ほとん
どが能面で、狂言面はわずかに3面
のみ。その中に、これはなかなかのも
だと思わせる1面があります。名前は
祖父(写真1)。何とも情けない顔で
すが、室町時代にさかのぼるうかとい
う古格があります。
面裏(写真2)を見ると、おあらか
な作行ぎで、額の中央に花押(サイ
ン)が刻んであり、左には「狂言」と
朱書があります。これらは、いずれも
作られてから後の時代に記されたも
のです。花押の主は、残念ながら分
かっていません。
面の材質は、一般的にはほとんどが
ヒノキ材で、キリ材のものも知られて
います。ところがこの面は、漆が塗っ
てあるのでわかりにくいですが、面

クスノキ材の面

とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ

裏の感じは、ヒノキやキリの木肌とは
違う感触があります。用材として、別
の樹種が使われているのに違いあり
ません。
実はこの面は、たいへん傷んでいて
展示できない状態でしたので、文化財
の修復家に依頼して保存修理をし
ました。修理方針などを話していくな
か、これはクスノキ材ではないかとい
うことになりました。まさにクスノキ
の面があるのです。
彫刻用材の歴史を見ていくと、日本
で最初に仏像が作り始められた飛鳥
時代、木彫像はクスノキで作られまし
た。また、この時代の面(伎楽面)に
もクスノキが使われています。なぜな
のでしょうか。古代の人々は、現在の
私たちが考えている以上に樹木につ
いて豊富な知識を持っていました。ク
スノキが何に使われていたかとい
うと、古墳時代には舟や木棺の用材だ
ったことが分かっています。比較的彫刻
が容易なこと、虫が付きにくいことが
理由なのかもしれません。防虫剤の
樟脳や、それを精製した防腐・鎮痛
剤のカンフルは、クスノキから作られ
ています。

「写真の作品は、常設展「ほん
ものとの出会い」で、2月6日
~3月10日 まで展示します
(期間中無休)。

これに加えて、また別の理由もあり
ました。かつて日本には、クスノキの
巨木が多くあったと考えられていま
す。今でも神社の森に樹齢数百年とい
うクスノキを見ることがあります。こ
うした樹木は神の依代(よりしろ)と
考えられる特別な木でした。
クスノキで仏像を彫刻している現
場に行ったことがあります。強烈な樟
脳の匂い、芳香が、あたり一帯に漂っ
ていました。日常とは異なる雰囲気
です。こうしたことから、仏像という聖
なる尊像を作るにあたり、神の宿る一
種の香木として、クスノキを用いた
だという説があります。
この面が作られたのは、室町時代の
ことと推定されます。古代以来のク
スノキの神秘に対する感性が、生き続
けていたと想像してみたくありません。
(彦根城博物館学芸員 齋藤 望)

第150回